

対話的評価活動を通じたスピーチ改善の試み

近藤行人(名古屋外国語大学)・田中典子(名古屋大学)

実践の背景

スピーチ改善に必要なこと

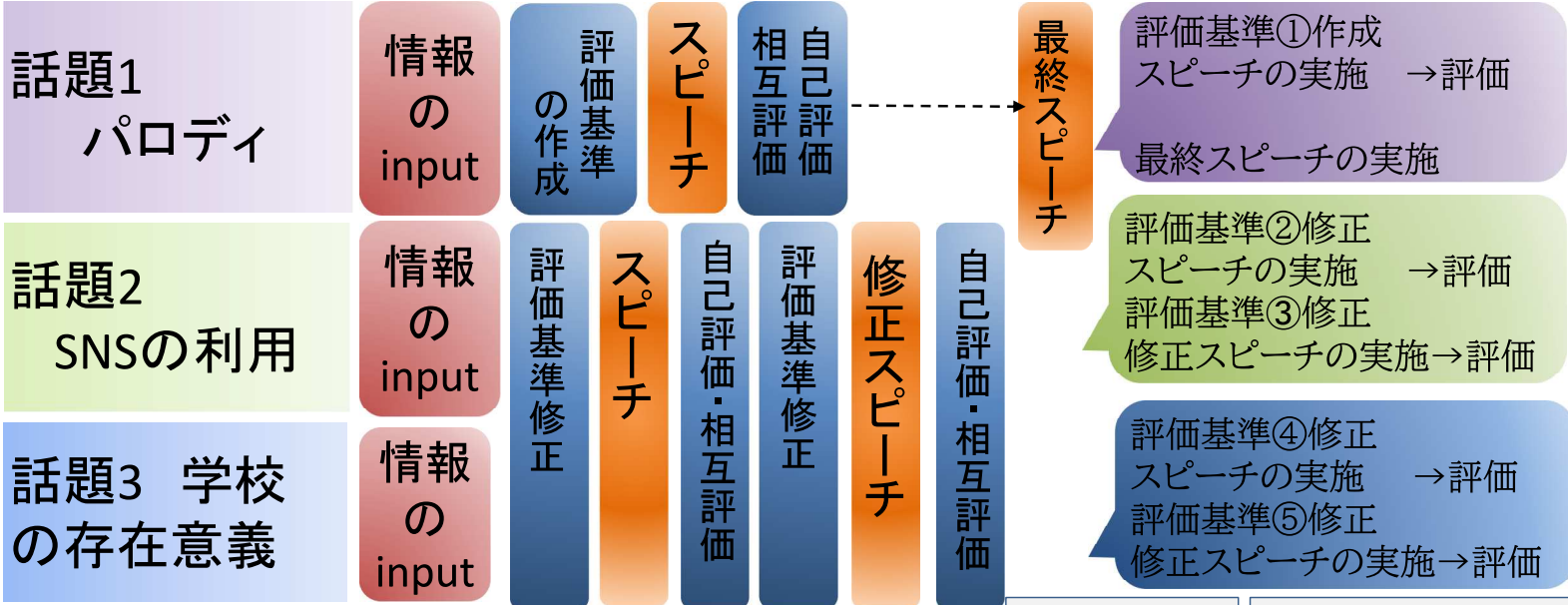
- ・自分自身の発表を適切に評価する
- ・他者からのフィードバックをもらう (村田 2004)

評価基準作成を繰り返す

- ・学習者に必要な基準設定
- ・基準自体の精緻化 (衣川・金原 2011)

本実践では、学習者が対話を重ねながらスピーチの評価基準を設定し、これに基づく自己評価、他者評価を行うことでスピーチ改善を目指した

実践の概要



評価の変遷

主張を伝えるには、簡潔なまとめが大切
説得力には構成が必要

関係のない話をせず、最適な例を出すべき

フィラーはもうできたと思う
「聞き手の反応への対応」はスピーチタスクに不要

	評価表①	評価表②	評価表③	評価表④	評価表⑤
長さ	3分から4分	3分以上	3分以上	3分以上	3分以上
聞き手への配慮	聞き手の反応を見て説明が変えられる。 適当な声の大きさ	聞き手の反応を見て説明が変えられる。 聞き手への態度 適当な声の大きさ スクリプトに依存しない	聞き手の反応を見て説明が変えられる。 聞き手への態度 適当な大きさの声 スクリプトに依存しない	聞き手の反応を見て説明が変えられる。 聞き手への態度 適当な大きさの声 スクリプトに依存しない	聞き手の反応を見て説明が変えられる。 聞き手への態度 適当な大きさの声 スクリプトに依存しない
構成・説得力	簡潔にまとめて話せる 納得ができる 説得力がある	簡潔にまとめて話せる 納得ができる 説得力がある	簡潔にまとめて話せる 納得ができる 説得力がある	簡潔にまとめて話せる 納得ができる 説得力がある	簡潔にまとめて話せる 構成に疑問を持たない。 納得ができる 説得力がある
正しい日本語 -発音 -話し方	特殊音のこともきちんと伝わる 落ち着いて話せる トラブルが発生してもすぐ対応できる	日本語の熟練度 特殊音のこともきちんと伝わる -発音 -話し方 落ち着いて話せる トラブルが発生してもすぐ対応できる -フィラー 気にならない	日本語の熟練度 特殊音のこともきちんと伝わる -発音 -話し方 落ち着いて話せる トラブルが発生してもすぐ対応できる -フィラー 気にならない	日本語の熟練度 特殊音のこともきちんと伝わる -発音 -話し方 落ち着いて話せる トラブルが発生してもすぐ対応できる -フィラー 気にならない	日本語の熟練度 特殊音のこともきちんと伝わる -発音 -話し方 落ち着いて話せる トラブルが発生してもすぐ対応できる -フィラー 気にならない
情報の正確さ ・出所・出典			情報の正確さ ・出所・出典 出所を示した	情報の正確さ ・出所・出典 出所を示した	情報の正確さ ・出所・出典 ※データがある場合 出所を示した
タイトルと内容の一致・関係性			タイトルと内容の一致・関係性 タイトルと内容がある	タイトルと内容の一致・関係性 タイトルと内容がある 脱線しない	タイトルと内容の一致 タイトルと内容がある 脱線しない
主張			主張 何を言いたいかわかる 何を言いたいかわかる	主張 何を言いたいかわかる 何を言いたいかわかる	主張 何を言いたいかわかる 何を言いたいかわかる

フィラーが多くて気になる
映像では下を見て話している
練習が足りないかも

情報の出所はきちんと示すべき
「どこか」は変だ

タイトルの内容とスピーチの内容がずれているのでは？
いいスピーチには主張が入っているはず

本実践で得られたこと

参考文献

衣川隆生・金原菜穂(2011)「モニタリングの基準の確立を目標とした口頭発表技能養成の授業」『言語文化論集』29, 2, pp.333-345
 村田晶子(2004)「発表訓練における上級学習者の内省とピアフィードバックの分析—学習者同士のビデオ観察を通じて—」『日本語教育』120, pp.63-72
 関田一彦・渡辺貴裕・仲道雅樹(2019)『教育評価との付き合い方—これからの教師のために』さくら社

対話的評価によるモニタリング能力の涵養 教室におけるよいスピーチ＝価値観形成の過程